

2019 年度実施概要

学校名

明治学園高等学校

採択活動名

縄文海進の研究と歴史観光マップの作成

取り組みの概要

審査通過時にいただいた「採択条件・コメント」に従い、より「海の学び」につながる学習内容になるように計画を変更して活動を実施しました。大きな変更点として、「歴史観光マップの作成」に代えて、「北九州における臨海地域の土地利用に関する考察」を活動のゴールとして設定しました。そのため、採択活動名と実際の活動内容に齟齬が生じる結果となりました。

① 基礎知識の導入（4月）

担当教員の講義により、生徒は活動に必要な基礎知識を得るとともに、活動へのモチベーションを高めた。講義内容：「縄文海進とは？」、「洪積層と沖積層の違い」、「臨海地域としての戸畑」

② フィールドワークによる「縄文地図」の作成・シミュレーションによる「未来地図」作成（5～7月）

戸畑区内において徒歩によるフィールドワークを行った。特に洪積層・沖積層の違いを意識しながら巡検し、得られた情報を地図に追加し、「縄文地図」を作成した。その後、国土地理院の WEB 地図サービスやコンピューターソフト（mandara やカシミール 3D）を利用して、海面上昇シミュレーションを行った。シミュレーションの結果に基づいて、戸畑区の将来の海岸線と利用可能な土地を確定し、それらの情報を集約して戸畑の「未来地図」を作成した。「縄文地図」、「未来地図」の比較を行い、歴史的視点から土地利用のあり方を考えた。この活動を通して、生徒各人はそれぞれで取り組むべき具体的課題を発見し、以後の活動方針を決定した。（具体的課題：「戸畑区内の公立小学校の多くは将来水没する可能性が高い」等）

③ リサーチクエスチョンと仮説の設定（8月）

生徒は、夏休み中の研究に向けて、リサーチクエスチョンとそれに対する仮説を立てた。担当教員は、研究を進めるのに有効なクエスチョンと仮説が設定されているかどうかを厳しくチェックし、必要な指導を行った。（リサーチクエスチョン：「未来の戸畑区の小学生が安全な小学校で学ぶため、現在の行政が行うべきことは何か？」等/ 仮説：「海面上昇シミュレーションの結果や小学校の地形的特徴を考慮して、今後の小学校の統廃合を実施する」等）

④ 仮説の検証（9～10月）

生徒は、これまで培ってきた社会や理科の知識を総動員して、それぞれの仮説の検証を行った。その際、北九州市役所や戸畑区役所でのインタビューや、いのちのたび博物館（北九州市八幡東区）や戸畑図書館（北九州市戸畑区）、ゼンリン地図の資料館（北九州市小倉北区）での資料閲覧を行い、検証活動を充実させた。

⑤ 展示物の作成（10月）

生徒は、これまでの研究活動と研究成果をポスターにまとめ、学校の文化祭で展示した。文化祭ではそれぞれがポスター発表を行い、発表能力を伸ばした。

⑥ プレゼンテーションの準備（11月）

生徒は、これまでの研究活動と研究成果をスライドにまとめた。文化祭発表後に得られたフィードバックを研究に活かし、より良い内容のプレゼンテーション資料を作成した。

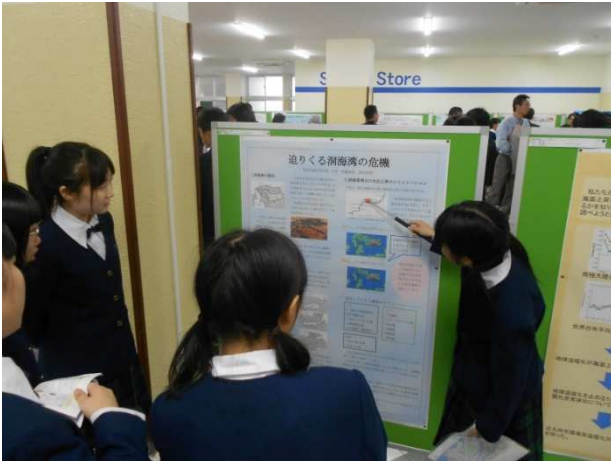
⑦ 成果発表（12～2月）

生徒は、校外の課題研究発表会に参加し、ポスター発表やプレゼンテーションを行った。

⑧ 論文作成（1～2月）

発表に対するフィードバックを得て、発表の振り返りを行った。その後、研究成果を論文にまとめる活動を行った。まず、教員がアカデミックライティングの基礎知識を導入した。その後、生徒各人は論文のアウトラインを作成し、教員の指導を受けながら論文を執筆し、2月末に担当教員に提出した。

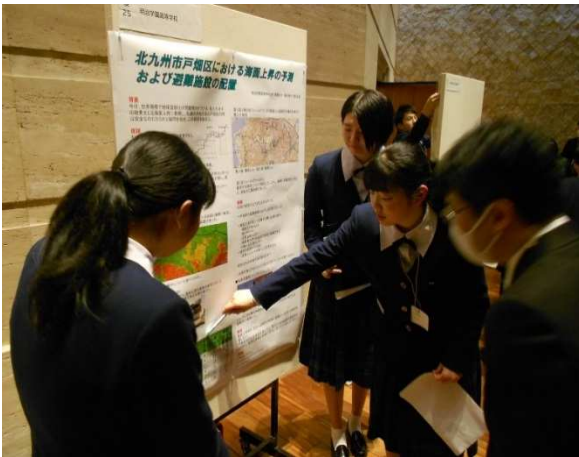
活動中の写真



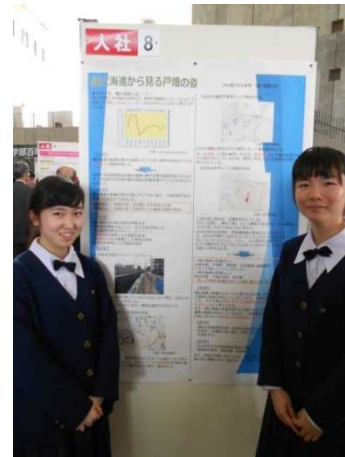
本校文化祭での発表



ゼンリン地図の資料館（北九州市）での学習



全国海洋教育サミット（東京大学）での発表



九州大学アカデミックフェスティバルでの発表

実施単元名

1. 基礎知識の導入
2. フィールドワークによる「縄文地図」の作成・シミュレーションによる「未来地図」作成
3. リサーチクエスチョンと仮説の設定
4. 仮説の検証
5. 展示物の作成
6. プレゼンテーションの準備
7. 成果発表
8. 論文作成